

持続可能な未来への道

メーカー各社 SDGs の取り組み

Vol.06

DXアンテナ株式会社

今や、企業の共通言語となりつつあるSDGs。とりわけ、電設資材メーカーとの親和性は高く、2030年までに達成することを目指すSDGs17目標のうち「07:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「08:働きがいも経済成長も」「09:産業と技術革新の基盤をつくる」「11:住み続けられるまちづくりを」「12:つくる責任 つかう責任」「13:気候変動に具体的な対策を」などは、電設資材メーカーの企業活動そのものとも言えます。

そこで、全日電材連賛助会員の電設資材メーカー各社を順番に訪問し、その先進的な取り組みをご紹介します。



DX アンテナ株式会社

本 社 所 在 地：	神戸市西区室谷 1 丁目 2 番 2 号
創 業：	昭和 28(1953) 年 8 月 1 日
代表取締役社長：	長代 輝彦
従 業 員 数：	372 名 (2024 年 4 月 1 日時点)
事 業 内 容：	各種アンテナ及びテレビ受信関連機器・CATV 関連機器・情報伝送システム関連機器・セキュリティシステム関連機器全般の製造販売、並びに付帯する調査・設計・施工管理
H	P : https://www.dxantenna.co.jp/



沿革

1953年	有限会社関西テレビジョン研究所として神戸市において創業。
1966年	社名をDXアンテナ株式会社に変更し、新デザインによる商品を制定。
1978年	わが国初の実験用SHF放送衛星の受信装置で 信号の鮮明受信に成功。
1996年	CSデジタル放送の開始にあたり他社に先がけデジタル対応機器を開発。
2003年	三大都市圏での地上デジタル放送サービス開始に合わせ、新形UHF全帯域用アンテナ「デジハット」「デジカイト」を商品化。
2009年	ハイビジョン放送信号を高品質のままワイヤレス伝送を行うミリ波伝送システムを発表。美しさと高性能を両立させた地デジ用平面アンテナを発売。
2013年	西神テクノロジーセンター内に国内有数規模の「電波暗室」を開設。
2017年	エレコム株式会社のグループ企業に参画。
2019年	本社事業所を西神テクノロジーセンター内に移転。
2021年	ネットワークカメラシステムをはじめとした同軸カメラ・ワイヤレスカメラなど発売し、カメラ事業へ参入。
2023年	エレコム株式会社、さくらインターネット株式会社と連携し、クラウド録画サービス「Antenna-eye」のサービスを開始。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



環境と人にやさしい 製品づくり



第6回の訪問メーカー様は、神戸市の西端、西区室谷に本社を置くDXアンテナ株式会社様。1953年の創業以来、放送受信関連機器専門メーカーとして事業を行ってきましたが、2017年にエレクトロニクスグループとなったのを機に、「放送・通信」情報の情報伝送システム企業として新たな事業領域に挑戦されています。

本社にて、楯川清隆常務取締役兼技術第2部長、川幡貴之販売推進課課長の2名にお話を伺いました。

(文中での敬称は略させていただきます。)



DXアンテナ DXデルカテック

西神テクノロジーセンター

川幡貴之販売推進課課長

楯川清隆常務取締役兼技術第2部長

■環境負荷低減商品に

「THINK ECOLOGY」マーク

編集部 SDGs達成目標があればお聞かせいただけますか。

川幡 DXアンテナでは、エレコムグループとして、SDGsの取り組みを行っています。その中でも「環境」「社会」「ガバナンス」と項目を分けそれぞれの基本方針に基づき、グループとして共通の意識をもち、同等の対応品質で取り組めるよう、行っています。



具体的な数値目標としては、2050年カーボンニュートラル、2030年のCO₂排出量（Scope1+Scope2）を2020年度比で50%削減することを目標に取り組んでいます。

編集部 その目標を達成するための具体的な取り組みについてお聞かせください。

川幡 本社において、電力を再生可能エネルギーの電力メニューに変更しているほか、兵庫物流センターでは、DX化に伴い、作業効率が大幅にアップしている一方、施設規模も大きく、相應の電力も必要なことから、省エネに取り組んでいます。現在、施設内の照明のLED化や照明の人感センサー導入を進めており、節電効果は18,000kWh/月におよびます。

また、営業車両のハイブリッド車両へ入れ替えを順次進めています。

楯川 SDGsを意識して取り組んでいるというよりは、従来からの取り組みを改善しながら継続しています。省エネについてもかなり早い段階で取り組んでおり、業界に火をつけたと思っています。

川幡 そうですね。環境にやさしい製品づくりはDXアンテナの企業文化として根付いています。環境マネジメントシステムのISO14001も業界に先駆けて1999年12月に取得しました。

また、低炭素志向のリスク低減および機会創出の取り組みとして製品・パッケージについて、環境負荷の低減を目的とした「THINK ECOLOGY」製品への置き換えを進めています。

該当製品について、WEBへの掲載・商品へ掲載することでお客様に環境へ配慮した製品であることを認識いただくことができます。これにより積極的に

環境負荷の少ない製品を選択いただくことで、環境への負荷低減を進めています。



編集部 「THINK ECOLOGY」の具体的な取り組みについて教えてください。

川幡 特に製品やパッケージに含まれる石油系プラスチックは廃棄時においてCO₂の排出や、海洋生物の生態系破壊をもたらすマイクロプラスチックの発生要因になります。地球環境を守るため、プラスチック材料の削減、紙の使用量や廃棄物の削減に重きを置いた取り組みを行っています。

例えば、BS・110度CSアンテナや平面アンテナにおけるパッケージのプラスチック材料の削減や製品に同梱している紙面マニュアルについて、WEB

マニュアル化を進めており、パッケージに表示するQRコードからWEBマニュアルへアクセスすることが出来ます。

現在、166機種(8月20日時点)が「THINKECO LOGY」に対応しており、順次拡大を目指しています。

楯川 現在基準にクリアしているのは166製品ですが、そのほかについても、基準制定前からの基準を満たしている製品が多くあり、以前より環境配慮した製品作りに取り組んでいます。

梱包容器も量販店向けの商品は中身が見えないと売りづらいものですから、プラスチック製品を使っていますが、基本的には紙への移行を進めています。

また、商品配送時に納品書を入れるビニールに関しても、お客様へ取組みをご理解頂き、先日より撤廃させて頂きました。

編集部 SDGsの目標達成に向けての課題といいますと。

川幡 やはり、コストがかかることでしょうか。プラスチック削減にしても、梱包材の段ボール化に

しても、従来のものと比べると大幅にコストがアップしてしまっています。しかしながら、環境にやさしい商品作りへの積極的な取り組みを進めて行きます。

楯川 そのための拠点がここ西神テクノロジーズセンターであり、EMC電波暗室や大型電波暗室、各種試験室を取り揃え、多様化するお客様のニーズに応える製品づくりに挑戦し続けています。

編集部 建設業界の2024年問題に対応する商品や取組みをご紹介いただけますか。

川幡 商品については、工事店様が「より施工しやすい」「より調整しやすい」を観点に設計しています。取説のQRコード化で必要な時に必要な場所を取説を取得できることも2024年問題への対策になるかと思っています。

また、製品の技術的なお困りごとを解決する「Dサポ!」で初期設定や、各種端末の詳しい

手順を確認することが出来ます。

楯川 現在、工事現場のDX化の観点から、遠隔操作可能なウェアラブルカメラ、AI機能搭載セキュリティカメラの開発を進めています。工事現場の省力化・省人化や防犯対策など様々な場面で活用できると考えています。

■防災面でも多様な商品展開

編集部 近年多発する自然災害や、南海トラフ地震臨時情報が発表されたのも記憶に新しく、防災面での電設資材の役割に注目が集まっています。

川幡 阪神淡路大震災を経験した地域の企業ということもあり、防災対策資材には従来から力を入れています。今回ご紹介したいのは、「自動遠隔力ギ解錠システム」になります。

災害時は交通機関が混乱するため、避難所の鍵の管理者が





なかなか駆け付けできず、避難に支障が出るケースがありました。鍵を持ちたがらない管理者もいらつしやるかと思いましたが、当商品は、LTE回線を活用し、災害時に警報と連動して自動解除が可能な鍵ボックスです。遠隔操作と監視ができ、定期的な動作確認が可能です。

楯川 CATV等、LTE以外のインフラにも対応可能ですので、避難所の運用で課題のある自治体様、施設管理者様に おすすめです。



楯川 特にパラボラアンテナの場合、向きや角度が数度ずれてしまっただけで、映らなくなってしまう。当商品は、反射鏡面に複数の穴を開けることで、風が穴を通り抜けるため、風圧を軽減します。また、金具を改良し、風圧によるアンテナの回転（左右）を防止するなど、業界トップクラスの耐風速性能を備えています。

編集部 防災の観点で言うと、耐風速シリーズも当てはまりますよね。

川幡 高齢の方にとっては、まだ

まだテレビは災害時に大事なインフラになりますので、インフラを守るという観点で、パラボラアンテナと地デジアンテナで展開させていただいています。

楯川 合、向きや角度が数度ずれてしまっただけで、映らなくなってしまう。当商品は、反射鏡面に複数の穴を開けることで、風が穴を通り抜けるため、風圧を軽減します。また、金具を改良し、風圧によるアンテナの回転（左右）を防止するなど、業界トップクラスの耐風速性能を備えています。

えています。

■社会面での取り組み

編集部 社会面での取り組みは

いかがでしょう。

川幡 人権やハラスメントに関する再教育や労働組合との情報共有による残業時間の削減、外国籍社員の採用、育児休暇の取得促進、エレコムグループとしても植樹活動や児童養護施設で暮らす子どもたちの葉山保養所への招待など多方面で取り組んでいます。

楯川 DXアンテナ単体としてはまだまだ大きい企業ではありませんから、地元の高等専門学校の授業にダンボールを使ったアンテナキットを提供するなど地域社会への貢献を積極的行っています。

編集部 女性活躍推進の取り組み

はいかがでしょう。

川幡 男女問わず、能力のある人はきちんと評価するシステムは

かなり前からありますし、年々女性社員比率は上がっています。営業職でも毎年コンスタントに女性を採用しており、初年度は電設電材系の営業で勉強してもらっていますが、皆優秀な方ばかりで、成果を上げています。営業職の女性が極端に少ない業界でしたから、業界も変わってきたと実感しています。

楯川 開発職においても、最近特にソフト面で女性を採用することが増えています。



編集部 最後に、社会との関わりについて、今後の展望をお聞かせください。

楯川 DXアンテナは、さまざまなステークホルダーの皆様を支えられています。お客様や株主の皆様だけでなく、社員・サプライヤー・地域社会とのコミュニケーションを大切にしたいと考えています。また、継続的に成長・発展していきたいと考えています。



SDGs

いちおし

商品



レベルチェッカー『LC 80WS』

■特長

2 K・4 K・8 K放送信号に対応した地デジ・BS（右旋・左旋）・110度CS（右旋・左旋）・スカパー！プレミアムサービスのレベルと信号品質を同時測定できる携帯性の高いハンディ形のレベルチェッカーです。信号品質は、BER・MER・C/Nが測定可能。LTE（700 MHz帯）のレベル測定も可能。

ブースター内蔵アンテナやBS・110度CSアンテナ、スカパー！プレミアムアンテナに電源供給と電圧測定可能。4.3インチカラー液晶モニターはタッチパネル式で直感的な操作が可能。本体背面にはHD対応カメラ及びライトを内蔵し現場の撮影・



記録が可能。防水性能は、IPX4（防沫型）を確保しており、高さ1 mからの落下に耐えるラバーケース仕様。本体はリチウムイオンバッテリー搭載（4.5時間以上駆動）。モバイルバッテリー・差込口（Type-C PD対応）からの受電で駆動可能。

データの保存は便利なmicroSDカード（8 GB）が付属。microSDカード、又はUSB（Type-B）経由でPCへ書き出し可能。設定したチャンネルをダイレクトに呼び出すUSER設定が可能。BS10、12、14が2.4 GHz Wi-Fi信号の干渉を受けている場合、「干渉」表示により簡易判定できます。

『新商品は、リチウムイオンバッテリーを内蔵しています。乾電池を使用していた旧商品は場合によっては年間800本程の交換が必要でしたが、新商品は1回の充電で4.5時間以上の駆動が可能です。また、耐衝撃・耐落下・耐振動性能・防沫・防塵の高い耐久性で、現場においても安心して作業できます』（川幡貴之課長）

■SDGs商材を拡販するために 電材卸会社へお願い

「SDGsに伴い、環境に配慮したモノづくりを行うために、アンテナやブースター類においても以前より、ポリアゲの削減をさせて頂いております。取説においても今まで紙だったところをWEBへ切替させて頂いておりますが、何卒ご理解の程よろしくお願い致します。」

また、商品提案でお困りごとがあれば、勉強会の実施など、協力させていただくので是非お声掛けいただきたく存じます。お客様である電気工事店様での実施も対応させていただきます。」（楯川常務）

会社のお宝

ご紹介

歴代ヒット商品の数々



「BS受信用レンズアンテナ」



「家庭用ブースター」



「BS受信用アンテナ・フラットタイプ」



「混合器」(家庭用/共同受信用)



「地上波受信用室内アンテナ」



「レベルチェッカー」



「地上波受信用アンテナ」

